

宮代町第2回ゼロカーボン推進協議会 会議録	
日時	2024 年 11 月 12 日（木） 14：00～15：45
場所	宮代町 コミュニティセンター進修館 研修室
出席者	協議会委員：新井会長・大場委員（宮代町）、千葉委員（新しい村）、 鈴木委員・南委員（鈴木工務店）、尾崎委員（東武レジャー企画）、 中村委員・片岡委員・増田委員（中村建設）、 原委員（日本工業大学）、坂巻委員（宮代町商工会）、 陰山委員（無印良品） アドバイザー：雨宮教授 事務局（町）：小林副課長、佐藤主任 委託業者：株式会社エスプール 相楽、北見

内容
【議 題】 （１）宮代町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案について （２）目標達成に向けた施策の検討 【配付資料】 ・宮代町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案１～７章（資料１－１～１－７） ・宮代町の特徴（資料２） ・素案第１章～第７章 目次（当日配布資料） 【議 事】 ●議題（１）宮代町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案について （資料１－１～１－７に係る説明） 大場委員： 資料１－４（９ページ）に、CO2 削減の根拠が書いてあり、その中で、 2050 年では技術革新が 2 万 7,306 トンだが、2030 年には技術革新の数 値は反映されていない。 省エネ対策については、2030 年と 2050 年はほぼ横ばいで、再エネの導 入については 4 倍程度の伸びを見込んでいるということだが、この考え 方をもう少し詳しく説明してほしい。 委託業者： 技術革新に関して、1 つ具体例として地中熱を想定。実際に導入すれば 削減に役立つが、一方で現時点ではコストや性能の面から導入のハード ルが高い。約 6 年後の 2030 年度までの導入は難しいが、2050 年度まで と考えると十分に可能性はあると考える。

再エネ導入についても同様な考えで、2050 年度までに積極的に太陽光などを導入していく必要があり、目標からのバックキャストで数字を算出している。

大場委員： 技術革新は地中熱を使うという前提で、2030 年から 2050 年に導入に向けた検討を視野に入れた削減目標だと理解した。

省エネの対策は、2030 年から 2050 年ではほぼ横ばいで、今の状況では拡大は考えにくいということか。

委託業者： 生活の中で省エネはある程度進んできており、技術革新を待つより先に取り組んでいけることから、まずは省エネを進めていくという整理をしている。

坂巻委員： 今後、2030 年や 2050 年にどのくらいの面積で太陽光を導入するのか、ZEH の建物を建てていくのかといった具体的な数字があると、商工会の中で話をしやすい。そういった話を通して皆の意識を変えていきたい。

中村委員： 最近、話題になっているペロブスカイト太陽電池はいつ頃から実用化される見通しか。

委託業者： 某メーカーで商品化になりつつあるという話は聞いているが、商業ベースに乗るかどうかという段階だと認識している。

雨宮教授： ペロブスカイト太陽電池は、現在、実証試験が行われている段階。弱点として寿命が短いと言われている。技術の発展により改良されると見込まれるので、2030 年以降については期待できるが、2030 年までは現時点で十分利用可能な技術の導入を優先して考えた方が良い。

雨宮教授： CO2 排出量の将来推計や再エネの導入量など、どういう考えでこの数字になったのかをもう少し分かりやすく表現してほしい。

地中熱については、公共施設等で何らか挑戦し、事例を作ってみるのが良いのでは。

2030 年の目標を達成するのは、相当力を入れて省エネ対策に取り組まなければならない。そのための施策を細かく考えてほしい。例えば、どんな取組をしたらどれくらいエネルギーや CO2 が減るか、という事例を書いてもらわないと、どんな施策をどの程度進めたらよいかわからない。

●議題（２）目標達成に向けた施策の検討

（資料 2 について説明した後に意見交換）

委託業者： 第 6 章の施策に関し、重点的に取り組むものや、さらに追加すべき取組、住民・事業者が自分事として捉え行動するにはどうしたらよいかについて、皆さんから意見をいただきたい。

例えば、住宅の断熱化という観点ではどうか。

南委員： 宮代町のまちづくり建設課が耐震改修促進計画に基づき補助金を出している。今年度からは、省エネの対策もしっかりやりましょうということで、建て替えにも補助金が出ている。

2025 年からは、4 号建築の特例が縮小になり、確認申請を取るときに、省エネも検討しなければならないというように、法律が変わってきている。補助金があることを周知し、住民が建て替えをどんどん進めていけば、町にとっても省エネ化が進み耐震の建物が多くなるので、いかに周知をしていくかが課題では。

委託業者： せっかく制度があるにしても、周知が行き届かないとその取り組みが進んでいけないこともあるので、町の施策としては周知を徹底するのが必要と感じた。

中村委員： コスト（イニシャルコストとランニングコスト）の問題が、いつも難しいと感じている。断熱のスペックを上げると、できあがった後に、お客様からエアコンを少ししか使わなくて済むという話をいただける一方で、初期費用は大きくなる。建設事業者としてもメリットを詳しく説明できるようになるといい。

断熱のスペックを上げれば非常に脱炭素に繋がるが、予算ないからどうしようかというお客様もあり、工事をする側としてはいつもその点が悩ましい。

委託業者： コストは、その取り組みが進むか進まないのかといったところで重要な観点かと思う。

原委員： 何にでも補助金があるといいのはすごくわかる。ただ、宮代町は昼夜人口に差があるという特徴があるので、例えば、太陽光発電に加え、蓄電池を設置する、電気自動車であれば夜間に放電することによって、家庭では電気代がほぼゼロで済むということや、これだけ投資しても 15 年でここまで回収できるというような事例をたくさん提示すれば、補助金がなくても投資してみようという気になるのでは。

こうした事例を提示することも、一つの「見える化」だと思う。

委託業者： 省エネや再エネに関し、事業者の関心はいかがか。

坂巻委員： 今のところ、商工会ではこういった議論はあまりない。今月も理事会があるので、意見交換してみる。次回の会議で発表させていただく。

委託業者： ゴミの減量化や、資源化の促進といった観点ではどうか。

千葉委員： 生ごみ処理機があり、生ごみを熱で燃やして肥料にし、園内に撒いて再生している。

一般のお客様でもコンポストを置いたり、市民農園の利用者も生ごみを土に混ぜて堆肥を作っていたり。興味のある人は取り組んでいる。

陰山委員： 店舗でプラスチック用品やボトルの回収は行っているが、現状、自社製品
のみの回収にとどまっている。

食品ロス削減の取組として、役場と連携をしてフードドライブを実施して
いる。町民の自宅にある、もう食べないお菓子やレトルト商品を回収し、
必要としている方に回していく取組をしている。

会社として、素材にリサイクル商品になるべく選択することは、結構長い
期間続けている。バージンプラスチックを使わず、再生プラスチックで商
品化するというのをどんどん進めているが、社内の回収だけではまかな
えてない。

プラスチック用品などの回収率をどんどん上げていって、その回収、再生
自体を社内でまかなえるようにしていく段階。

委託業者： 紹介いただいた取組について、どうすれば住民の協力が得られるか。

陰山委員： 取組の知名度を上げていくことが一番かと思う。

店舗以外の場所でも回収をできるようにすることを町に協力してもらえ
るのであれば、もっと回収量が上がり、ゴミも削減できるのでは。

尾崎委員： 非常に多くの動物を飼育しており、その中でもゾウやカバといった草食動
物のフンが大量に出るので、敷地中でたい肥化し、協力会社が所有する農
地で使用するほか、販売したり配布したりしている。

委託業者： 各社、すでにいろいろな取組をしており、それをいかに住民にも知って
もらえるかという点が、さらに取組を進めていくための鍵になると思う。
宮代町の特徴として、日本工業大学があるということは重要かと思うがど
うか。

雨宮教授： いろいろなアドバイスができると思う。町民の方々に講演のような形で脱
炭素の重要性を認知してもらうとか、企業に出向いて話をすることも可
能。事業者の計画等を聞けるのであれば、相談を受けるといった協力もで
きるかもしれない。

これまで大学と事業者との間の連携は、あまりなかった。

原委員： 大学には環境施設などが実際に稼働しているので、生のデータや事例を公
開することが可能。学生の力を使って楽しみながら周知するような活動も
できるのでは。

大場委員： 宮代町の住宅は、共同住宅（アパート、マンション）も多く、断熱改修を
進めるのが難しいのでは。

他の自治体の例について、次回紹介をいただきたい。

共同住宅の方は、ごみの分別があまりできてない状況もあるので、ゼロカ
ーボンの取組と合わせて進めていかなければならない。

雨宮教授：住宅の断熱化は、実際に効果があると感じてもらえることができれば、もっと理解が進むのではないかと。実際に体験した人の事例や声をもっとアピールすることがよいのでは。省エネだけでなく、健康面やコスト面のメリットについて分かってもらうことも必要。

ゴミの処理の問題に関しては、皆さん自主的に、いろいろと工夫しているかと思うので、ぜひ推進していければ。

堆肥化の話では、メタン発酵というのも考えられる。

見える化という話では、やはり自分たちがどれくらいエネルギーを使い、どれくらいCO₂を出しているのかを知ることが重要なので、個人でもお店でも事務所でも簡単に自分たちの排出量が把握できるような施策を、町としてとっていただきたい。

新井会長：確かに、見える化は大事だと思う。この取組をやるとどのくらい削減できるということに気付けば、やはり必要だと思えるので、その観点を取り入れながらまとめていく。

●事務連絡

事務局：（１）第３回協議会について

次の会議は、12月17日（火曜日）9時半から。会場は宮代町役場2階の202会議室を予定。正式な通知は後ほど委託事業者から送付。

（２）施策に関する意見書について

後ほど意見照会のメールを送付する。

（３）今後のスケジュール

第３回の全体会議では、今回の計画案に皆様の意見を反映させた素案を資料として提示する。

そこからテーマを抽出し部会を立ち上げるので、部会の立ち上げは来年の２月から３月頃を想定している。

その他

会議資料は事務局で用意するので、印刷してこなくても問題ない。

●閉会

以上